

一般社団法人名古屋小児がん基金(NPCF)

2022年度事業報告

一般社団法人名古屋小児がん基金(NPCF)は、小児がん患者の治療成績や治療環境の向上を図ることにより、患者およびその家族の福利に資するとともに、広く小児がん研究や診療の向上を図ることが目的である。この目的を達成するために関連する諸団体と連携して、下記の事業を実施した。

事業計画（１）小児がん患者における新規治療法の開発や遺伝子診断への支援

全国の15小児がん治療拠点病院の中でもトップの臨床実績と研究成果をもつ名古屋大学小児科でのCAR-T療法の開発を支援した。臨床試験の結果も順調で、安価な名大方式のCAR-T細胞製造法の特許が認められた。当基金設立時の目標の一つが達成できた。また、タイのチュラロンコーン大学病院にCAR-T細胞の製造支援をし、すでにタイでも臨床現場で使われている。

次世代シーケンサーを用いたゲノム解析の経費の支援を続け、患者ご家族の負担を軽減することができている。愛知県で2017年から始まっている先天性免疫不全症に対する新生児マススクリーニングの結果、名古屋大学でさらにゲノム解析をし、重症複合免疫不全の赤ちゃんが2人発見され、発症前の治療に成功した。これは日本で初めてのケースである。このゲノム解析によって、難治性の遺伝性疾患を発症前に診断し、治療する方向性がみえてきている。

事業計画（２）患者・患者家族への経済的支援

保険適応がない薬剤を必要とする患者さんへの薬剤費用支援をした。

事業計画（３）アジアの発展途上国における小児がんに関わる医療従事者や患者への支援

ベトナム・イラクの医師研修受け入れが、新型コロナ感染症の影響で中断していたが、20年前に名大小児科で学んだイラク医師の夢であった骨髄移植センターが、2023年秋にバスラで開設されるのにあわせて、医師の研修受け入れの準備を始めた。

基盤事業

(1) 小児がん基金の財政基盤を確立するために、広報活動に力をいれた。

- 理事長が依頼を受けた講演会で基金のリーフレットやニュースレターを配布した。
- 支援者へニュースレター5号・6号を送付した。
- 2020年3月からイオンの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に毎年登録し、市民の方々への広報にもなっている。
- 樋口宗孝がん研究基金・ライオンズクラブ・名古屋キワニスクラブ・公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団から助成金をいただいた。

(2) HPの充実を図り、最新の小児がん治療法の動きを伝えた。

- 毎月1～4回医療情報や活動報告を発信
- メールマガジン毎月発行（登録者111人に増えた）
- ニュースレターも発行する都度HPに掲載した。

(3) 医療講演会・募金活動・イベントなどを通じて小児がんの現状を伝えた。

- 最新医療事情を広く市民に伝えるために、6周年記念イベントを9月4日に開催した。
愛知県下はもとより県外からも多くの方々に参加いただき、当基金への期待を感じた。
- 理事長の講演会や寄付金贈呈式などで、当基金の活動を伝えた。
(保険医協会・ライオンズクラブ・商工会議所・キワニスクラブなど)
- イオンスタイル豊田で行われた献血の呼びかけ活動に呼応して、当基金の募金活動や広報を行った。